

えがお

「えがお」が、ホームページで見られるようになりました。広報誌「えがお」や「伊那市えがお」で検索して、ご覧ください。



令和4年度
No. 7
2月14日

伊那市
よりよい
教育環境
推進連絡会

美篤小 開校記念行事 「資料館公開・体験学習」



美篤小学校では、二十一年前の開校百周年から、開校記念日に、学校に併設されている資料館の公開や体験学習を行っています。

今年の体験学習は、きな粉づくり、モロコシもぎ、大豆つぶし、味噌づくり、機織り、手押しポンプと薪風呂、縄ない、舞ざり式発火法、竹籠細工がおこなわれました。



(上) 専用の機械で、モロコシをもちで、(下) チャポにあげています。



この体験学習を計画・実施していただいているのは、美篤小資料館運営委員十二名の皆さんと運営委員さんが声をかけて集まった地域の皆さん、創造館や高遠歴史博物館の学芸員さんたちです。それぞれ活動がうまくできるように、準備を整えて、児童を迎え、笑顔で丁寧に説明や体験の支援をしていただきました。

児童の皆さんは、学年ごとに楽しく活動に取り



(上) 炒った大豆を石うすで細かくします(下) わらで、縄を編みます。



(上) 手押しポンプで水をくみ上げます。(下) 薪風呂が沸いて、手を入れてみました。



(上) ゆでた大豆を機械に入れて、すりつぶします。(下) ひとり一人、丁寧に機織りのやり方を教わりました。



(上) 上川手竹細工クラブの方から教わりながら、篠竹で籠を作ります。(下) 助け合いながら、縄文時代の方法で、火起こしをしています。



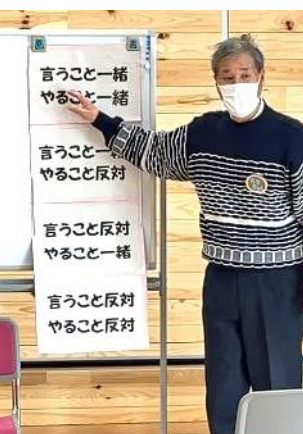
組み、日頃なかなかできない体験をしました。この日の給食には、昨年度作った味噌を使った味噌汁が出されると聞きました。きつと一段と美味しい味噌汁だったと思います。

貴重な物品が保管されている資料館の見学だけでなく、体験活動もできる、児童を中心にした素敵な開校記念日でした。

西春近公民館 人権同和教育講座 「人間関係づくりに役立つ 「ミニコミュニケーションゲーム」④ 人と触れ合い、助け合う 地域を目指して」

西春近公民館の人権同和教育講座が、講師に長野県レクリエーション協会会長で、伊那市手良公民館館長の竹中雅幸先生をお迎えして、西春近公民館で開かれました。

脳を活性化させ、人々の心を元気にし、人と人をつなぐべく、「笑顔・笑い・ユーモア」を大切にしたい、助け合う地域になってほしいと願う竹中先生は、最初はちよつと緊張気味だった会場の雰囲気やアイスブレーキングのジャンケンや体操で、あつという間に和やかにしてしま



ました。

デュアル・タスク(二つの作業を同時にする)で、脳の複数の領域を使い、脳を活性化させようということ、ステップを踏みながら拍手を入れたり、動作と言葉を四つのパターンでおこなったり、布ボールで体を動かしたりしました。また、竹中先生が研修会や講演会で活用してきたゲームを一冊にまとめた「たけちゃん脳トレコミュニケーションゲーム」から脳トレパズルも楽しみました。(左)

ア	ラ	ム	シ	ロ	リ	ザ	ウ
メ	カ	マ	キ	リ	ギ	ア	ス
ン	ノ	ミ	ン	ン	ン	ン	ン
ボ	ミ	シ	ノ	ザ	ボ	オ	ハ
ゼ	ン	フ	ナ	ガ	タ	ツ	バ
ン	シ	セ	ム	シ	ム	カ	デ
ン	シ	ミ	ム	カ	デ	リ	ム
ン	シ	ミ	ム	カ	デ	リ	ム
ン	シ	ミ	ム	カ	デ	リ	ム

最後に、人とながら、笑顔で楽しく前向きに生きるために、「脳の最高の栄養素は、知的好奇心」、「脳はトレーニングで変化する」、「運動・睡眠・食事、読書や公民館活動やボランティア活動への参加」、「のんびりできる時間を楽しむ」ということを教えていただきました。

冒頭でのお話の通り、楽しく脳を鍛え、会場に笑顔あふれる講演会でした。

東春近小「しめ飾りづくり」

東春近小学校の五年生は、今年上伊那特産の品種である「白毛餅」を育て、今回その菓を材料として使って、しめ飾り(玉飾り)をつくりました。

この活動は、二十年以上前から始められ、東春近公民館が地域講師を探して、学校に紹介して行われています。この日は十一人もの講師の方が、指導に越しいただき、少人数のグループで丁寧に教えていただきました。

最初はうまく縄をなうことができなかった児童も講師の先生に教えていただきながら、二時間ほどで、しめ縄ができました。後半は、縄を丸く成形して、菓を差し込む作業をしていきました。この後、菓が乾くのを待って、紙垂(しで)や葉、鯛や扇



全体の形ができた後、紙垂(しで)のつけ方を教えてもらっているところです。

あるボランティアさんは、「例年、子どもたちも気に入って、大事にしてくれている。」と嬉しそうにお話しされていました。児童の皆さんも、きつとお正月には、自分の作ったしめ飾りを嬉しそうにながめていたのかなと想像し、五年生の良い思い出となる貴重な体験になりました。

高遠町公民館 人権同和教育講座 映画「中村哲さんの仕事」

高遠町公民館 河南地区分館 上山田支館では、教養講座「上山田学級」が開かれ、「二胡楽胡」の皆様の二胡の演奏、伊那市教育委員会生涯学習課学芸員の大澤佳寿子さんの「見て、聞いて、語ろう！昭和の暮らし 向山雅重の世界」信州・伊那谷の食と暮らし」という演題での講演会、映画「アフガニスタン 中村哲の軌跡 荒野に希望の灯をともし」の上映が行われました。映画は、アフガニスタンとパキスタンで三十五年にわたり、病氣や貧困に苦しむ人々に寄り添い、二〇一九年にアフガニスタンで水路建設に邁進する中、武装勢力に銃撃されて死去した、医師・中村哲さんの足跡を追ったドキュメントです。



映画に先立ち、行われた大澤さんの講演会では、昭和20~30年代の写真をみながら、当時の様子を思い出し語り合いながら、振り返りました。

映画は、これまで長藤地区分館でも上映され、今後、多くの皆さんに、ご視聴いただけるように考えているということです。講演会という形ではありませんが、足を運びやすい近くの分館で、多くの方が人権意識を高めることができるありがたい機会であると思われました。

中学生の自習室2023冬



一月四日・五日に「中学生の自習室2023冬」が、伊那公民館（伊那中、東部中）、美篤公民館（東部中）、西春近公民館（春富中）、西箕輪公民館（西箕輪中）、高遠町総合福祉センターやますそ（高遠中、長谷中）の五会場で行われ、市内の中学校から、延べ七十人の生徒が参加しました。

暖房のきいた部屋で、午前中三時間、各自が用意した教材を使って、学習支援スタッフの方の指導を受けながら学習を進め、その後、食事支援のスタッフが用意してくださった軽食をいただいて、帰宅します。

どの会場でも集中して真剣に学習に取り組む中学生の姿が見られ、規則正しい生活リズムを取り戻すことができたのではないかと思います。参加した中学生の感想を紹介します。

○家でやるよりも静かだったし、集中できていると思ったのいいと思いました。朝、学校と同じくらいの時間から始まるので、生活リズムも整えられていいと思いました。あと、カレーもすごくおいしかったです。

○2日間行ってみて自分は3回目になるけど、受験の前こういう勉強の場があるとありがたいし、昼食も出してくれてとてもおいしかったから良かった。



伊那市人権同和教育講座講演会 「児童虐待の現状と対応について」 ～地域で支える子どもたちの未来～ 長野県諏訪児童相談所 森 美奈子さん

保育協会との共催による伊那市人権同和教育講座講演会が、長野県諏訪児童相談所の森美奈子さんを講師にお招きし、伊那市生涯学習センター「ニシザワいなつせホール」を会場に開催されました。

前半は、県内の児童相談所の概要、児童相談所の一時保護機能や措置機能、相談種別、相談件数の増加や虐待の種類、虐待者の状況、通告後の対応などのお話がありました。



後半は、児童福祉法の大きな改正で、子どもの権利がクローズアップされ、子どもの育成には、国・地方公共団体が保護者と共に責任（共同責任）を負うという内容が入ったことで、保護者を支援し、分離の場合は家庭と同様な養育環境を整えること、児童相談所と市町村の役割分担や連携、地域で支える要保護児童対策地区協議会の設置などが進められてきたお話がありました。最後に当事者の声を聴くというこ番組の紹介がありました。

保育協会だけでなく、多くの市民の皆様の参加があり、児童虐待問題への関心の高さが窺えました。《参加された方からの感想》
○虐待と聞くと、「親が・・・」と感じてしましますが、お話の中で生活のしにくさ、子育てのしにくさ等、様々な原因がある中でのSOSと知ることができました。目の前にいる子どもたちが笑顔で過ごせるよう早期発見、保護者との会話の中での支援をしていきたいと思えます。

○地域社会で子どもを見守る必要があります。教育・保育現場での早期発見がとても大切だと思いが、子どもを取り巻く大人が大人同士支え合える、相談できる、話せる関係性が作れたらよい。



伊那中学校公開授業 「子どもたちがはたそう学びのか」 ～子どもが探究する姿を求めて～

伊那中学校では、先生方が「子どもが主体的に学ぶ学校にしよう」、「今までの当たり前をもう一度問い、積極的に見直そう」、「変化を恐れず、まずやってみよう」という『伊那中マインド』を持ち、「探究」をキーワードにして、学びの改革に取り組んでいます。

この日の公開では、まず全校生徒が、「やってみよう」を探究しよう」を合言葉に、自分のテーマを決めて、調べてきたことを発表し合う『マイチャレンジ発表会』からはじまりました。



1～3年生までの縦割班を編成し、マイチャレンジを発表し、意見交換をしました。



「猫の視界は、どのように見えているのか」、「スボ飯を作って体を整えよう」、「メントスを入れると一番吹き出す炭酸は何だろう」等々、ここには載せきれないほど多くの個性が興味深いテーマがあり、それぞれの生徒の皆さんが生きていく主體的に探究してきた様子を知ることができました。『研究発表』では、十月の文化祭の中で実施された「探究の時間」マインクエスト」で、保護者や地域の方々、高校生や高校の先生方などと連携して学ぶ機会があり、伊那中学校が様々な取組をしながら、豊かな学びを進めてきたことが分かりました。



(上) 道徳: タブレット端末に自分の意見を入力しています。
(下) 国語: 作品の書評を発表し合っています。



(上) 理科: 凸レンズを通る光の進み方を調べています。
(下) 体育: オリジナルダンスを完成させ、練習しています。

『公開授業』では、道徳・理科・国語・体育の授業がおこなわれました。どの授業においても、タブレット端末を当たり前に使って、実験やダンスの映像を記

録したり、自分の意見の入力や友だちの記入した文章を共有したりして、学習を進めていました。最後の『授業者と語る会』では、公開授業の教室に分かれて、伊那中学校の実践や子どもたちの姿から、学んだことについて意見交換がおこなわれました。伊那中学校では、校区にある「竜北保育園」の遊びの中から生まれる学び、「伊那小学校」「伊那西小学校」の体験から生まれる学びをいかしながら、中学校でリアルな学びを追究する保小中で一貫して子どもを育てる視点を大切にして、学校運営をしています。探究の内容や話し合いの姿の中に、そうした育ちの歩みを感じられた学校公開でした。

西箕輪小・中学校 学習支援ボランティア

西箕輪小学校では、クラブ活動が終わった十二月から五回の予定で、「学習支援タイム」の時間を設けています。低学年は、火曜日の朝、八時二十分～四十五分まで十五人の学習支援ボランティアの先生が各学年に分かれて入り、ドリル学習などの丸つけをおこないます。高学年は、火曜日の放課後、十五時五分～十五時五十分までボランティアの先生が各学年に入り、個別指導や協働学習をします。担任の先生とボランティアの先生で、多い時には各学年三人で子どもたちの指導ができています。西箕輪中学校では、三年生の希望者三十二人が、十月～二月までの毎週月・木曜日に、二十回の実施予定で、放課後学習の時間を設けています。英語と数学の四つの講座が開かれ、十一人の学習支援ボランティアの先生が学習指導をしており、これは三人の生徒に一人の先生ということになりました。



西箕輪小中学校では、保護者や地域の皆さん、信州大学の学生さんと連携して、児童・生徒さんに手厚い学習支援をおこなっています。

お詫び

先月のえがおNo.6で、「中学生キャリアフェス」の記事のタイトルを「無限大」と表記しました。しかし、「夢」という文字を使って「夢限大」と表現したいという願いでつくられたテーマです。このため、こちらの表記が誤っていました。ここに、お詫びし、訂正致します。

